

# 『十勝型』地域包括ケアを目指して ～新たな医療・介護連携、4年間の歩みとこれから～

十勝連携の会  
笠松 信幸 幹事  
(かさまつケアオフィス  
合同会社代表)



## ⑩ 十勝連携の会がめざすもの

2012年から「十勝連携の会」が重点的にすすめてきた道の医療連携推進事業は、本年度が最後の年です。初年度は「医療・介護の実情把握と分析」、2年目は「連携ツールの作成と試行」をすすめてきました。3年目の今年は「連携システムの運用、行政への提言、地域住民との連携拡大」が活動目標です。

### ✂在宅医療体制の構築支援✂

介護が必要な状態になっても、住み慣れた地域で安心して暮らせる「地域包括ケアシステム」を実現するためには、医療と介護が両輪のようにスムーズに連携できる体制づくりが欠かせません。けれども、十勝はまだそれが十分機能しているとは言えないように思います。医療機関や介護事業所が集中している帯広市にあっても、在宅医療(訪問診療、訪問看護、訪問リハビリ等)を行っている医療機関・事業所が少なく、要介護高齢者のニーズに応じきれない現実が残念ながらあるからです。

一方、在宅介護については、14年間の介護保険制度の蓄積によって、施設やサービス事業所、地域包括支援センター等が整備され、すべての自治体に在宅高齢者を支援するケアマネ体制が確立するなど前進がみられます。

そこで私たちは3年目の課題を「在宅医療体制の構築支援」に決めました。具体的には、十勝全域の医療機関(33病院138診療所)を対象にした実情調査(アンケート調査)を行い、すでに在宅医療を実施している医療機関の動向を把握するとともに、いまは取り組んでいなくても、在宅医療の展開について予定がある医療機関と連携のきっかけづくりにとりくみます。

もとより、在宅医療を実施するか否かは、医療機関・医師それぞれの裁量で決することであり、私たちが関与できることではありませんが、そうした検討の参考になる情報や意見交換の場を設けることは出来ます。だから「構築支援」なのです。

#### <アンケート項目(案・一部抜粋)>

- 【1】現在あるいは以前に、在宅診療を行っていますか？
- ①現在、定期的な訪問診療や臨時の往診を

行っている(施設、自宅)

②定期的な訪問診療は行っていないが、臨時の往診は行っている

③以前には行ったことがあるが、現在は行っていない

④一度も行ったことはない

【2】今後、在宅診療を行う考えはありますか？

①定期的な訪問診療も含めて、行いたいと考えている

②定期的なものは行う考えはないが、患者から依頼があれば、臨時往診を行ってもいいと考えている

③今後も行う考えはない

【3】在宅診療を行わないと考える理由は何ですか？(複数回答可)

①夜間や休日の対応ができない

②現在の自分自身の診療上、必要性がない

③外来診療が忙しく、時間がない

④手間がかかる割に、診療報酬が低い

⑤学会などに参加できなくなる

9月27日「地域で安心して暮らせるまちづくり」をテーマに開催される研修会では、こうした調査結果を報告するとともに、関係者が集まって実りある意見交換が出来るよう、いま準備をすすめているところです。

### ✂住民参加型の地域包括ケア✂

「地域包括ケア」は医療と介護の関係者だけでは実現できないと私たちは考えています。

各自治体の保健行政による公的バックアップ、地域を形作るコミュニティの協力、こうした「保健」と「住民」の力が得られるかどうか、ここに「地域包括ケア」が実のあるものになるか、形ばかりのものになるかの分かれ目があるように思います。(図1)

3年間の医療連携推進事業の総まとめとして、2015年2月7日に開催する「地域で安心して暮らせるまちづくり(その2)」と題した「住民公開講座」は、医療・介護関係者だけでなく、十勝管内の各自治体職員、民生委員、町内会役員など広く地域住民にも参加いただくシンポジウムにしたいと思っています。

### ✂十勝は北海道の縮小版✂

十勝は日本でただひとつ、2次医療圏(一般的な医療サービスの提供圏域)と3次医療圏(高度医療の提供圏域)が重なっています。本州なら1つの県に相当する広さがありながら、人口10万人を超える都市が帯広市ひとつしかなく、周囲が山や海に囲まれて他の圏域と地理的に隔絶された特性によるものです。

それはあたかも、政治、経済、文化が札幌市に一極集中している北海道を、十数分の1に縮小した姿に相似しているとも言えなくもありません。

ただ、大きな北海道全体を相手にするのと違って、十勝は小さい分だけ、地域の実情が分かりやすいというメリットがあります。圏域の19市町村の大半は、道路整備がすすんだお陰で、中心都市・帯広市に1時間以内に到達できます。人的交流がしやすいため、専門職相互の「顔が見える連携(多職種連携)」がオール十勝で実現できるのも優れた特徴です。

「十勝型地域包括ケアシステム」の構築は、まだ道半ばですが、保健・医療・介護の専門職と地域住民が互いに連携する

中から、十勝の風土にマッチした包括的な地域ケアがいずれ遠からず形づくられて行くだろうと確信しています。

私たち「十勝連携の会」の役割は、そうした連携のきっかけをつくる場を、研修会や意見交換会、ケア・カフェなどさまざまな形で提供していくことだと考えています。

(おわり)

図1・住民参加型の地域包括ケア

